

【春子夫人が描いた墨絵】

ようやく暑さも峠を越え、少しずつ秋の気配を感じるようになってきました。

秋と言えば、読書の秋、スポーツの秋、食欲の秋など、様々な「秋」が思い浮かびます。今月の“イッピン”では、「芸術の秋」をテーマに「春子夫人が描いた墨絵」をご紹介します。

当館には夫人の春子が描いた墨絵が 27 点あり、笹竹、松といった縁起物などを題材として描かれています。ここでは、現在の季節にぴったりの「ぶどう」「菊の花」を描いた作品をご紹介します。

墨絵とは、墨を使った絵画全般のことをいいます。似たものに水墨画がありますが、水墨画は墨に水を含ませ、濃淡やぼかしを使って描く絵のことをいいます。5～6世紀に中国で発祥したといわれ、日本には鎌倉時代初期に中国から禅宗とともに伝えられ、日本の美意識の中で美しい水墨画に発展してきました。（一般社団法人国際墨画会「水墨画を学ぶ」より一部引用）

少女時代にはお習字、生花、ピアノ、琴、踊りなど、お稽古事に精を出した春子。もちろん絵画もたしなみ、墨絵もお手のものだったことでしょう。

今回ご紹介した「墨絵」は残念ながらいつ頃描かれた作品かは不明ですが、葉の部分は濃く、花びらや果実部分は淡く、また所々に陰影がつけられ、立体感が際立ったとても美しい作品です。

春子が描いた「ぶどう」



↑ 「菊の花」 →

